

SGH 海外フィールドワーク 2017 アメリカ合衆国西海岸コース

茨城県立土浦第一高等学校

- 1 目的 (1)現地大学と連携したフィールドワーク、講演、文化交流、現地高校と連携したアカデミックワークショップ、文化交流、現地企業と連携したフィールドワーク等により、生徒の課題研究の進展及び国際意識を身につける。
(2)将来、国際的に働いたり、グローバルビジネスの起業を考えたりする際に不可欠な人的ネットワーク構築術を身につける。

2 日程 平成 29 年(2017 年) 8 月 14 日(月)～21 日(月)

3 方面 アメリカ合衆国 アーバイン市、ラグナビーチ市、サンワンカピストラノ市

4 参加者 2年生8名 引率2名 筑波銀行担当者1名 添乗員1名

5 選定理由 【アメリカ合衆国西海岸方面を選定する理由】

(1)交流の優位性

訪問するアメリカ西海岸には、本校の地元である土浦市やつくば市の姉妹都市があり、交流実績がある。その実績を生かして訪問する現地高校を選定することができる。日本とも歴史的つながりが深いため、現地高校生の中にも日本に関心をもつ生徒が多い。これらより、学校間交流としても、また生徒間の交流も、一過性でなく長く続くものと期待できる。

(2)地域的な利点

アメリカ西海岸は世界のテクノロジー産業を牽引する地域であり、今後もさらに発展していく可能性が高い地域である。その高校を訪問し、現地高校生と触れ合いながら教育や産業の実態に本校生徒が触れることは、ビジネスプランを考える上でも有効であり、また生徒が将来グローバルな場で活躍しようとする際にも重要な経験となる。

【アメリカ合衆国・カリフォルニア大学アーバイン校を受入先とする高大連携の理由】

(1)提携先としての優位性

筑波大学教員の関係者が在籍し、本校のプログラムに関心をもっている。本校との連携にも積極的であり、今後も連携が継続していくと考えるため。

(2)地理的優位性

本校の地元である土浦市やつくば市の姉妹都市が近隣にあり、交流実績がある。その実績から、土浦市やつくば市からの協力を取り付けやすく、連携の継続性が生まれると考えるため。

(3)生徒の意向

アメリカ合衆国でフィールドワークをしたい生徒が多い。その希望に添うことで、一層意欲的に海外フィールドワークに取り組めると考えるため。

6 行程の詳細, 生徒感想, 写真

日次	日程	地名	現地時間	交通機関	日程	朝	昼	夜
1	8/14 (月)	羽田空港 ロサンゼルス	12:00	DL6 専用車	羽田空港集合後、チェックイン、出国手続 空路、ロサンゼルスへ ***** 日付変更線 ***** ロサンゼルス国際空港到着 専用車にて、ロサンゼルス市内研修(専用車のみ・ガイドなし) ファーマーズマーケットにて自由食の後、 チャイニーズシアター、サンタモニカ見学後、コスタメサへ ホテルチェックイン ホテルにて夕食 <コスタ・メサ/Ayres Hotel & Suites Costa Mesa泊>	-	-	機内
			15:15			9:28 11:00 18:00	機内	自由食
2	8/15 (火)	ロサンゼルス 近郊 (UCI)	7:30	[ホテルバン] 専用車	ホテルにて朝食後、UCI(カリフォルニア大学アーバイン校)へ UCI学生とのセッション、学内フィールドワーク&昼食 午後、プレゼンテーション Q&A UCIからアナハイム市庁舎へ出発 Council Meeting 表敬訪問(17:00~市議会冒頭に参加) 専用車にてホテルへ ホテル着、ホテルにて夕食 <コスタ・メサ/Ayres Hotel & Suites Costa Mesa泊>	ホテル	UCI	ホテル
			10:00					
3	8/16 (水)	ロサンゼルス 近郊 (UCI)	7:30	[ホテルバン] [ホテルバン]	ホテルにて朝食後、UCI(カリフォルニア大学アーバイン校)へ Dr. GLUN講義、学内フィールドワーク・昼食 午後、Dr. SHIRAIWA 講義 UCIにて夕食 夕食後、ホテルバンにてホテルへ ホテル着 <コスタ・メサ/Ayres Hotel & Suites Costa Mesa泊>	ホテル	UCI	UCI
			9:00					
4	8/17 (木)	ロサンゼルス 近郊 (UCI)	7:30	専用車 [ホテルバン]	ホテル発、企業訪問へ Horiba Instruments (~10:30) Mission San Juan Capistrano見学 (~11:45) Lugna Beachにてフィールドワーク・各自昼食(~14:30) Fashion Island・および地元スーパーマーケットを視察 UCI到着(夕食) ※専用車はここまで 夕食後、ホテルバンにてホテルへ ホテル着 <コスタ・メサ/Ayres Hotel & Suites Costa Mesa泊>	ホテル	各自	UCI
			8:30 11:00 12:15 14:50 17:00 18:30 18:45					
5	8/18 (金)	ロサンゼルス 近郊 (UCI)	7:30	[ホテルバン] [ホテルバン]	ホテルにて朝食後、UCI(カリフォルニア大学アーバイン校)へ UCIにて発表準備、昼食 午後、プレゼンテーション Q&A UCIにて夕食(レセプション) 夕食後、ホテルバンにてホテルへ ホテル着 ホテルにてミーティング <コスタ・メサ/Ayres Hotel & Suites Costa Mesa泊>	ホテル	UCI	UCI
			9:00					
6	8/19 (土)	ロサンゼルス 近郊 (UCI)	8:30	専用車	ホテルにて朝食後、出発(専用車・ガイドなし) ロナルドレーガンライブラリー見学 GettyCenterにて昼食(各自) センチュリーシティ、ピパリーヒルズ、ロデオドライブ、ハリウッド見学 ハードロックカフェにて夕食 夕食後、グリフィス天文台視察 ホテル着 <ロサンゼルス泊>	ホテル	各自	レストラン
			10:30 12:30 17:30 18:30 21:00					
7	8/20 (日)	ロサンゼルス	8:00 11:28	ホテルバス DL7	ホテルバスにて空港へ(送迎・ガイドなし) <機中泊>	ホテル	機内	-
8	8/21 (月)	羽田空港	14:35		***** 日付変更線 ***** 到着後、入国・通関後、解散	-	機内	-

【1日目】8/14 羽田空港集合 ロサンゼルス到着後、ファーマーズマーケットなどで食事。

〔生徒感想〕

- ・道に迷ったときに、通行人が丁寧に説明してくれ、コミュニケーションをするための自信が少し身に付いた。
- ・ファーマーズマーケットでは、日本で売られていないカラフルなお菓子がたくさんあった。またインスタント味噌汁やせんべいなど日本で馴染みのモノも多いことがわかった。
- ・初めてのアメリカ本土はとても興奮した。ファーマーズマーケットでは、アメリカの活気に驚くと同時に、異国の風土を感じられて良かった。

【2日目】8/15

9時半よりカリフォルニア大学アーバイン校(UCI)の川内教授による大学のオリエンテーションを行なった。亀田教授とその学生も参加してくれた。10時よりUCI学生2名(DanielとKarthik)と川内教授によるチューターセッションを行なった。一高の生徒による茨城の紹介の後、2〜3名の3グループに分かれてプレゼンテーションの練習を行なった。ランチでは、参加者全員にピザランチと飲み物を提供していただく。午後2時まで練習を行い、その後スチューデントセンターを見学した。3時にアナハイム市庁舎に向かい、市議会を傍聴する。

〔生徒感想〕

- ・プレゼンの内容を覚え、手や身振り、アイコンタクトなどで相手に伝えることは難しかった。
- ・アメリカでは多様性に対して、言葉遣いや発表の内容に敏感になる必要があるということ学んだ。この共生社会でお互いに良い関係を構築していくことの難しさを知った。
- ・議会では日本では見られない市民問題解決と熱い実行力にアメリカの素晴らしい国民性を見ることができた。
- ・アナハイム市議会では、前に出て話している人も、ときどきジョークを交えながら和やかな雰囲気の中で進んでいることに驚いた。



市議会本会議で植田教諭がお礼のスピーチ



市庁舎前

【3日目】8/16

9時過ぎにUCIに到着。9時半よりDr. Grünによる講義を行う。英国ケンブリッジ大学の入試問題の一例を生徒に解かせるエクササイズから始まり、学際領域を考える柔軟性がこれからは大切なこと、アーバインの高校生の夏の研究研修の紹介をしてもらう。ランチは白岩学教授が手配してくれたメキシコ料理が参加者に提供された。その後スチューデントセンターでブースを張り、UCIの学生を対象にインタビュー形式のフィールドワークを行う。2時に一行は白岩学教授の講義を受講するために研究棟に戻る。事前に教授より、生徒達は各国の大気汚染対策について調べて考えてくるように課題を受けており、英語で発表、UCIの学生とディスカッションを行う。その後、日本語による白岩教授のキャリアパス、国際化社会で生き抜くための心得などを語っていただく。夕方はUCIの学食で夕食を取り、近くのスーパーで市場調査を行なったのち、バスでホテルに戻る。

[生徒感想]

- Dr. Glun の講義は、生物学の根本的な部分を突く質問から入ったのが印象的だった。生体移植についての考察があり、面白かった。
- 白岩先生の講義では、大気汚染について初めて耳にする専門家の考えもあり、勉強になった。学生ディスカッションでは、気づかない点への指摘があり、有意義だった。
- UCI でのインタビュー調査では、積極的に声をかけることが大切だと分かった。思っていたよりも英語でコミュニケーションをとることができ、楽しかった。
- 学内インタビュー調査は、始まる前はコミュニケーションが上手くとれるかが不安だったが、やってみると心配することはなかった。アンケート以外でもいろいろ話すことができ、楽しい時間を過ごすことができた。
- 現地の人へのインタビューでは、上手く話しが進まなかったのですが、その試行錯誤が余計に嬉しかった。



白岩学教授，研究室の学生，土浦一高生
UCI 化学部の Air UCI 研究科にて



UCI Ring Road でのフィールドワーク



インタビュー



3か国で同じ質問をしてデータを取得

【4日目】8/17

7時半にホテルをもち、アーバインの Horiba Instrument. Inc (掘場製作所) を訪問した。訪問は3部で構成されており、1.Horiba 日本人マネジャーの自己紹介と会社紹介、2.オフィス見学、3.生徒の自己紹介と質疑応答 を中心に行われた。会社側の好意により時間を延長して質疑応答を続けた。11時に Mission San Juan Capistrano に到着し45分ほど見学した後、近隣のスーパーマーケットで市場調査を行い、軽食を取った。その後ラグナビーチに移動し、ダウンタウンで1時間半インタビューフィールドワークと、市場調査を行なった。予定していたファッションアイランド(ショッピングモール)訪問はバスの移動時間の関係などより省略した。夕食をUCIの学食で取った後にバスでホテルへ戻った。

[生徒感想]

- 実際に今グローバルなビジネスの世界にいる方々のお話はどれも強く心に響いた。
- ホリバは日本とアメリカの起業の両方の良い所が組み合わさっている起業だと感じた。
- ホリバでのディスカッションでは、グローバル人材やリーダー論など、さまざまなお話を聞くことができ、今後の活

動に活かしていきたいと思った。

- ラグナビーチでのインタビュー調査では、UCIアーバイン校でのインタビューと違い、ほとんど相手にされず、インタビューができて質問が複雑で答えてもらえなかった。この経験を次のフィールドワークで活かしたい。
- ダウンタウンでは、庶民的なスーパーと高級スーパーを見て回った。ターゲットが異なるため、売られている物、販売方法に大きな差があった。一般人と健康志向の人の食生活の違いが少し分かった。



堀場副社長齋藤氏によるアドバイスを聴き入る



ディスカッション



Horiba 中山氏によるオフィスの説明



実習を終えた後、ラグナビーチの丘にて

【5日目】8/18

9時過ぎにUCIに到着した。10時まで自習時間と午後の発表練習をとり、10時よりジェトロLAオフィスの金指氏より講演いただいた。国際市場の現場に近いところから見た、今後の日本のマーケティングのあり方などのお話をいただいた。その後1時間ほど自習時間を取った後、昼はスチューデントセンターで昼食、1時に発表会場であるApplied Innovationに到着した。1時半より川内先生による土浦一高のスーパーグローバルハイスクールプロジェクトの紹介を行い、一高生により茨城の紹介発表を行なった。その後一人5分の発表の持ち時間+5分の質疑応答+5分の余裕(計15分)の持ち時間で発表を行なった。白岩教授, Dr. Grün, 竹本氏, Yang氏とMiss Emiko Grünの計5名に審査をお願いした。また8月16日のフィールドワークで知り合ったRiggs先生の日本語クラスのUCI学生10名がオーディエンスとして参加した。それぞれの発表に、審査員、オーディエンスより活発に意見が出され、15分の持ち時間を意識して進行誘導せざるをえないほど活気の満ちた発表会となった。発表終了後、白岩氏がオーガナイズしたレセプションが行われた。UCI大学生と交友を深めることができた。優勝者はフィールドワークのインタビューをうまくプレゼンに取り入れた津賀さんに決まった。

【生徒感想】

- JETROの金指さんの講義は「外から日本を見る」という点を学べて、良かった。もし何かやっていて、自分がやりたいことと違うと感じたら、一歩引いて全体を見渡し、自分が本当に進むべき道を歩みたいと思った。
- プレゼンテーションでは、質問に対して上手く切り返すことができず、また自分たちのプロジェクトの未熟さを知ったので、これからの研究でじっくりと改善、改良していきたい。

- AIでのプレゼンテーションは、実際にやってみると緊張はしましたが、それ以上に学び、感じるものがたくさんあった。とても貴重な体験ができた。
- レセプションでは学生と楽しくコミュニケーションをとることができて、言語の壁を超えることができたと思う。
- プレゼンテーションでは言いたかったことも全然伝わらなかったし、質疑応答ではなかなか質問を理解できなくて、悔しかった。この今日の苦い経験を忘れず、これからがんばりたい。



JETRO ロサンゼルス事務局の金指氏による講演



アプライドイノベーション、スクリーニングルーム



プレゼンの合間にUCIの学生と談笑する



レセプション終了後

【6日目】8/19

朝8時過ぎにアーバインのホテルを出発。10時ロナルドレーガンライブラリーに到着。レーガン大統領の功績が事細かに展示されている。その時代のアメリカや世界の情勢を知るには絶好の場所である。また実際に使用されていた大統領専用機(エアフォース1)は圧巻であった。1時にGetty Centerにて昼食、3時にチャイニーズシアターにて市場調査のフィールドワークを行う。物価は高い印象を受ける。多くの人種がごった返す刺激的な場所である。5時半、ハードドックカフェにて夕食後、研修の振り返りを行う。「〇〇ができた！」という感想より、「英語をもっと学習したい」「相手の言っていることが理解できず悲しかった」等、これからの努力を感じさせる内容であった。7時半にグリフィス天文台に到着、道路の混雑と生徒の健康面を考え、滞在時間は10分程度となった。

【生徒感想】

- ロナルドレーガンライブラリーでは、冷戦期の巧みな外交を行ったレーガンの様々な面を知ることができ、興味深かった。アメリカ合衆国を引っ張っていこうという強いパッションに満ちた人生を送ったことを感じ、心が震えた。

【7日目】8/20 朝8時出発、9時半空港到着チェックイン完了、11時搭乗開始

【8日目】8/21 午後3時羽田空港到着、解散

7 アンケート結果

(1)自分が当初目標にしたことと、その目標への自己達成度

- ・アメリカという大国に触れ自分を客観視し、これから自分が学ぶべきことを決める材料とする 75%
- ・いろんなスーパーに行き、市場調査をすること。外国人とたくさん話す 80%
- ・さまざまな経験を通して多くのことを学び、大学での発表を通してプレゼン内容へ意見をもらう 50%
- ・外国人と積極的にコミュニケーションをとる 75%
- ・日本との違いを知り、良い点を持ち帰る 60%
- ・外国人に和菓子(甘納豆)がどう受け入れられるか知る 80%
- ・積極的に学んで他の人より多くのものを得る 50%
- ・様々な講義や研修を通じて、今までにない多くの視点を持ちかえる 92%

(2)印象に残っていること、学んだこと、自分が変容したと思うこと

- ・アメリカでは、学歴より身につけたスキルが重要視されることを感じた。
- ・会計の時のチップ文化などにも触れられ、新たな世界を知ることができた経験となった。
- ・ホリバでの話し合いは、リーダー論からグローバルに対しての話しまで、自分の実体験とリンクさせながら聞くことができ、部活動やその他の活動が将来へつながっていることを再確認できた。
- ・アメリカの方は、日本人よりもフレンドリーで、優しいのだと感じた。挨拶を一つとっても、Enjoy, Have a nice dayとか、相手にストレートに感情を伝える言葉を多く耳にし、日本とは大きな違いを感じた。日本の「察し」の文化とは違い、「伝える」という文化を、肌で感じられた。
- ・英語力がないと、自分の意思を相手に伝えられなくて、相手が言っていることも分からない。日本に帰ったら、もっと英語力を上げるように努力したいと痛感した。
- ・積極的になれた。積極的に話しかけないと何も始まらないと思い、多くの人にアンケートをとることができました。その結果、多くの人と話すことができ、本題からはずれる話もしたりして、楽しい時間を過ごすことができました。これからは積極的に行動することを忘れないようにしたい。
- ・前より明らかに精神的にタフになった。環境が激変し、もはや文句すら出てこない状況だったので、結果は悪くても切り抜けることはできた。
- ・他人とのコミュニケーション力がついたと思う。英語だけでなく、手振りなどで伝える方法も身についた。
- ・人種に対する考え方が変わった。今まで黒人の人には少し怖いイメージがあったのだが、ほとんどの人はフランクだったので、人種に対する偏見のイメージがなくなった。
- ・今まで漠然と「グローバル化」とか「世界の人々」とか考えていたが、アメリカで多様な人種の人に実際に触れて、「私はこの人達と一緒に生きていたのか」とはっきり思った。アメリカの広い国土を見て、自分の心も広がった。